あきたの 生涯学習
まなびピア21 vol.51

県内で活動する生涯学習・社会教育関係者や団体を紹介します

活動分野から見た自然環境の保護と地域資源の活用

あきたエコマイスター県央協議会　副会長　　加藤　啓次郎

あきたエコマイスターは、平成１６年度に県が開講した「環境あきた県民塾」に始まり、「身の回りから地球規模にいたるまでさまざまな環境問題を一緒に考えましょう」との趣旨で学んだ第一期生が発足させた会で、今年で結成１２年目となります。

県民塾の修了者が希望すれば「あきたエコマイスター」となり、結成以来県内各地の自然環境保護や省エネ・ゴミ減量等の実践者、指導者として積極的に社会貢献活動を行ってきました。

私たちが環境活動に積極的に取り組むようになったきっかけについて述べます。

平成１８年度の修了証書交付式の際に、環境の達人で俳優の柳生博氏が「あきたの環境を考える集い」と題し講演されました。秋田県児童会館こども劇場は名士の来県で満員でした。「自然の大切さと地球を愛する心で、地球はすべての生き物のためにあることを認識し感謝しよう」という主旨の説得力あふれる講演は参集者に多くの感動を与え、今もエコマイスターや多くの県民の心に生き続けていると思います。

このような講演を聞き、自分はすでにエコマイスターであるのに活動分野が明確に出来ていないことに気づき、何かの分野で実践する事だと思い立ちました。そして、以前に家族旅行で新潟県佐渡に行ったときの、国道７号沿いの松くい虫による松枯れの現状を目の当たりにした光景が思い出され、その時の思いが本格的な活動の原点となりました。

これが機会となり、「壊してはいけない自然環境」「心を癒やす地域景観」などの感想文を新聞社に投稿したところ取材されたり、県立大の松くい虫被害木探査のボランティア活動があることを知ってメンバーとなったりしました。その後も環境と景観の保全、自然探索会、エコツーリズムの推進、また、現地体験で感じて行動出来るインタープリテーションを目的にした研修企画の催行、そして地球温暖化防止活動推進員就任など様々な活動に取り組み、現在に至っております。

これまでエコマイスターとして、個人的あるいは県央協議会の活動として、次のような取り組みを行ってきました。

○県立大教授指導による松くい虫被害木の焼却炭化処理：学生及び市民参加
○被害木の炭利用、白石と木炭がコラボした箱庭展示：県立大文化祭図書館ロビー
○「白砂青松の海岸線保全の継承」講座：遊学舎研修室
○「作って満足『ぼくと私の夏の宝物工作』」：自然素材を再利用した夏休み工作教室
○「もみじや草花を使った押し花の栞作り」：秋の読書週間（秋田県読書フェスタ）への協力
○「エコな日本の風呂敷活用」：国際教養大学生や大仙市婦人部
○「マイショッピング」：レジ袋の不使用運動の啓発活動
○鳥海山観光道路沿いのゴミ、空き缶、タイヤ、プラスチック・ビニール等の清掃活動
○千秋公園内の清掃活動や野鳥観察会
○里山の森づくり、植栽とキノコ植え付け、親子山菜採り：由利本荘市大内三川地区内
○夏の男鹿海岸門前、増川海岸漁港の清掃

これらの活動は継続することが大切です。今後も“エコな生活、みんなの地球、汚さぬ環境”に意を用い、地域の景観を宝として活用したいと思います。そして、持続可能な社会を次世代に残すことができるようエコ精神旺盛な会員の皆様と共に活動し、啓発・推進できるよう努めて参りたいと思っています。

特に子供たちを通じてこれから行動しなければならない若い世代にエコの大切さを定着させていけたらと考えています。

よりよい秋田市を目指して ～社会教育中期計画策定の役割を担う～

秋田市社会教育委員の会議　議長　　三浦　研二

秋田市社会教育委員の会議は、大学教授・准教授をはじめとする教育関係者・社会教育団体関係者・生涯学習実践者などの１０名で構成されています。毎年、各種研究大会の参加を含め年６回程度の会議を開き、社会教育委員としての役割を担っております。

今年度は、次年度（平成２８年度）から始まる「第５次秋田市社会教育中期計画」の策定年度にあたり、先ごろワークショップが開かれました。

ワークショップでは、世代別に四部門（乳幼児教育分野・青少年教育分野・成人教育分野・高齢者教育分野）に分かれ、社会教育委員がリーダーを務め、一般公募者、社会教育施設等の利用者とその担当者などが参加して、各部門とも３回ずつ開かれました。

第１回目は秋田市社会教育の「現状と課題について」、第２回目は「課題の解決策について」、第３回目は「解決策の具体化について」をテーマに意見が交わされ、和やかな雰囲気の中にも「学び」や「地域づくり」のための熱い発言もあり、充実したワークショップとなりました。

たくさんの意見の中から、主なキーワードを拾ってみると、「学びの情報の提供」「学びの機会の提供」「学びの環境づくり」「学びの意欲を高める工夫」「学んだ成果の活用」「地域コミュニティの（再）構築」などが挙げられます。

このあとは、ワークショップでの意見を基に①計画の素案作成　②策定部会の開催（素案の検討）　③社会教育委員の会議（素案の確認、検討）　④パブリックコメント（意見公募）の実施　⑤「市民１００人会（秋田市が意見聴取等を行う際の制度）」への意見聴取などを経て、教育委員会で決定されることとなり、秋田市が目指す社会教育の施策の方向性と具体的プランが示されるものです。

社会教育委員としては、この策定された計画を着実に推進し、行政と連携しながら、より良い秋田市を目指したいと思っております。

地域参加型の奨励員活動をめざして

八郎潟町生涯学習奨励員協議会　会長　　大原　慶子

わが町の奨励員は１７名で、主に公民館事業のお手伝いや講座の企画運営をしております。

定例会では、全員から活発な意見が出され、今年も町民の皆さんに喜んで頂ける講座を開催しました。参加者からは次の講座の開催を待ち望む声が多く、また初めての方からは「日中仕事なので参加しやすい」との声もあげられました。

また、７月は「大人と子どもの生涯学習サポートＤＡＹ事業」として、子供達に関わる家族が希望を持って頑張っていけるよう企画しました。会場は５月にオープンした「八郎潟町えきまえ交流館『はちパル』」です。

全館をフルに活用し、交流ホールでは佐々木美喜子さんによる日常品で作る「おもちゃと立体紙芝居」と、石川智子さんによる「ビーズでブレスレット作り」です。子供達は完成したおもちゃを友達と比べるなどしてとても楽しそうでした。またブレスレット作りでは男の子が「お母さんにもプレゼントしたい」と、色を選びながら作る姿が微笑ましく感じられました。

子育て支援ホールでは若松亜紀さんによる、乳幼児を持つお母さん対象の子育て相談です。いいところ探しゲームでは、「子供さんのいいところ１０個言えますか？」の問いに、参加者が指を折りながら数える様子を見て、講師は「ぜひ、子供さんにそのいいところを伝えてください。」とお話していました。

図書館では田丸美穂さんに「年齢に合った本の選び方・読み聞かせ方」のポイントを教えて頂きました。本の選び方ではプリントを活用し、自分へのお勧めはどんな本なのかを見つけ出せるようになっており、本との関わりがとても楽しくなる講座でした。

奨励員がそれぞれの担当を決めて、子供さんを持つ家族と関わりながら運営し大成功で終えられたことに、感謝の気持ちでいっぱいでした。最後の閉会式では参加者から楽しかったとの声が多く聞かれました。

これからも生涯学習を奨励する活動をみんなで協力し合って頑張っていきたいと思います。

あきたの生涯学習－まなびピア 21－　第51号（平成 27 年 12 月 1 日）

編集・発行／ 秋田県生涯学習センター　〒010-0955　秋田市山王中島町1－1

（TEL）018-865-1171　（FAX）018-824-1799　（E-mail）sgcen002@mail2.pref.akita.jp

まなびサポート秋田
http://lifelong.akita-kenmin.jp/

秋田県生涯学習センターWebサイト
http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/

行動人Webサイト
http://lifelong.akita-kenmin/koudoubito/